

特別寄稿『シリーズ：「50歳からの地域デビュー応援講座」を実施して』

～第2回「地域への関わり方 一人で？ 仲間と？」～

コミュニティビジネス総合研究所代表取締役所長：細内 信孝

1. はじめに

2012年7月からスタートした『50歳からの地域デビュー応援講座』は、宇都宮市中戸祭町の栃木県労働者福祉センターにおいて実施された全5回にわたる連続講座である。前回レポートした第1回目に引き続き、今回第2回目の講義概要を以下に紹介する。退職を控えた50歳代の勤労者（プレ・シニア）、そしてすでに退職されたシニアの方々の地域活動やボランティア活動の指針にしていただければ幸いである。なお当講座の第2回目の位置づけは次表の通りであり、同年7月18日に開催されたものである。今回も当講座で使用したパワーポイントを適宜本文に挿入しながら分かりやすく解説したいと思う。

『50歳からの地域デビュー応援講座』のカリキュラム

開催	テーマ	内容
第1回	今こそ、地域デビューのとき	50歳からの地域デビュー心得
第2回	地域への関わり方 一人で？ 仲間と？	ボランティア、NPOなど関わり方のかたちを探る
第3回	地域再発見！ 芸術文化、スポーツでまちづくり	アート、音楽、スポーツ、歴史、観光、まずは自分の関心分野から
第4回	キャリアを活かして地域に貢献	地域の安全・安心を守る、福祉に携わる、地域のニーズに応じてやりがいを実感
第5回	第2のキャリアステージは地域にあり	まちの仕事おこし、コミュニティ・ビジネスの考え方を学ぶ

2. ボランティア、NPOなどの関わり方のかたちを探る

今という地域の流れは、従来の行政単独の自治体経営から市民・住民、企業、大学等の協働による“新しい公共”としての地域経営が求められている。したがって市民・住民、企業、大学等の地域コミュニティへの積極的な参加、参画の窓は現在大きく開かれている。市民・住民にとって人生は、90年を目指す時代である。熟年期にあるシニアには子育ても卒業し、自由時間がたくさんある時代である。地域で地域活動やボランティア活動をするのも人生90年を楽しく生きる上で、有意義な過ごし方の一つである。

1995年神戸淡路大震災の教訓にもとづき、ボランティア活動等の市民活動をサポートする新たな法律の一つとして特定非営利活動促進法（通称NPO法、1998年施行）

が生まれた。今では4万6千法人を超えるNPO法人が全国各地で市民活動を展開している。こうしたNPO法人は、退職後のシニアや地域で暮らす女性たちの地域活動、ボランティア活動をサポートする有力な受け皿の一つである。NPO法人は、公益的な活動や事業を地域コミュニティで継続的に実施するための必要な資金、人材、情報等を集める上で有力な手段である。私的な利益にとらわれず、市民・住民の問題意識により仲間・同志、専門家や行政とともに活動する組織である。時には地域コミュニティの問題解決のために地域住民や行政、地元企業、専門家らが、一緒になって取り組むための新しい協働形態である。今までの勤労生活（会社員生活など）では、気づかなかった地域コミュニティの問題や私的な損得勘定を抜きにし、真摯に自己を見つめることが可能となる“自分興しの場”でもある。しかしながら、こうしたNPO法人にも課題はある。限られた活動分野（保健・医療・福祉・介護、社会教育、まちづくり、観光振興、環境保全、子育て、国際協力、男女共同参画、人権などの二十分野）やメンバーの高齢化・マンネリ化、地域活動・ボランティア活動を継続して展開するための資金不足。ある程度の事業性（適度なビジネス視点＝コミュニティ・ビジネスの導入等）の確保は組織としても必要である。よって勤労者・会社員時代の視点とはまったく違った自己実現をかなえる場にも成り得るのである。もちろん現役の勤労者・会社員時代からこうした地域活動やボランティア活動に取り組むのがベストであり、生活の幅も広がり人生を豊かに感じるものである。

1) NPO法人の特徴

その特徴について簡潔に述べてみよう。

NPO法人は、上述の法に基づく特定の公益的・非営利活動を行う組織であり、利益追求を目指す株式会社とは根本的に違う。その活動資金となる収入源は、会費、寄付金、事業収入、行政からの補助金、財団からの助成金による。そしてNPO法人に関与する人々は、地域住民や利用者、会員、役員、職員、専門家、行政職員など多岐にわたる。NPO活動のキーポイントは、誰にでも分かるミッション（使命）と幅広い人々からの共感や支持であり、また地域におけるニーズとシーズのマッチングや地域の人々との協力・協働関係に基づいている。

2) 初めての人のNPO（NPO法人も含む広義の非営利組織）とのかかわり方

初めての人には、地域コミュニティで行われる各種イベントや公開講座、社会教育、セミナーなどを通じて、NPOへの積極的な参加がおすすめである。もちろん一人で参加しても良いし、仲間と一緒に参加するのも良い。そこでもし自分に合うものが見つければ、ボランティア実習生としてまずは3か月～半年くらいNPOの活動に参加してみるのが良い。仲間もでき慣れてきたら正会員として積極的に参加するのも一つの考え方である。さらには2～3年後、そうしたNPOの活動が面白くなれば、そのNPOの役員になることも夢ではないのだ。

3) あなたもできる！身近な地域活動・ボランティア活動

地域コミュニティで身近にできる地域活動・ボランティア活動にはどんなものがあるのかというと、たとえば地元の観光ボランティアガイドがある。地域の歴史・文化が好きな人にはもってこいの“地域の仕事”だ。はじめは拙いかもしれないが、回を重ねるごとに本人も勉強するし、人前での話しにも度胸がついてくる。地元自治体に問い合わせてみると良い。そうした観光ボランティアガイドの養成講座を開設しているところは、意外にも多い。ただし観光ボランティアなので、自宅と現地との往復交通費と当日の弁当代支給しか実入りが期待できないことも肝に銘じておくべきだろう。



本格的な高齢社会の進展に伴い、地域コミュニティでニーズの高いボランティア活動の一つに福祉・介護関係がある。自治体の高齢者支援課や社会福祉協議会、特別養護老人ホーム、デイホームなどでは、常にボランティアさんを募集している。またそうしたボランティア活動そのものをポイント化して、将来自分や家族にも使えるよう貯めることも可能な制度にしている自治体も少なくない。一人暮らしの高齢者の中には、買い物代行や家事支援、通院の付添いを求め、身の回りの生活支援を必要としている人も少なくない。こうした要支援者を支えるボランティアさんの養成も地域コミュニティでは喫緊な課題の一つだ。これらを日常的な継続した“地域の仕事”レベルに引き上げると、コミュニティ・ビジネスになってくる。コミュニティ・ビジネスには、個人として便利屋事業を立ち上げる人もいれば、地域の仲間と一緒に協同組合、NPO法人、株式会社などの新しい法人を設立し、新しい公共の一翼を担っている人も存在する。

あなたもできる！ 身近な地域活動・ボランティア活動



Copyright ホソウチ ハカセ

また21世紀に入り、身近な地域コミュニティの環境保全に取り組む人々が着実に増えている。例えば自分たちの住む地域の清掃や美化にボランティアで取り組む個人や団体、地元企業も少なくない。企業も地域貢献を意識し、一企業市民として公益的活動に寄与する活動を展開している。こうした環境保全、環境美化のボランティアは、次世代を意識し、次世代からの預かりものとして地域の自然環境をとらえている。

あなたもできる！ 身近な地域活動・ボランティア活動



Copyright ホソウチ ハカセ

あなたもできる！ 身近な地域活動・ボランティア活動



【廃棄】



Copyright ホソウチ ハカセ

4) 地域活動・ボランティア活動の事例

私たちが暮らす地域コミュニティには、多くの“地域の仕事”が存在する。次に挙げる地域活動・ボランティア活動の事例からも分かるように、その活動分野は、国際交流から福祉・介護、社会教育、子育て、公共施設のサポート、自然保護まで多岐にわたる。地域コミュニティへの恩返し、お勤めとして積極的に地域の仕事に参加するのも良いだろう。実は都市部にも稼ぎ（経済価値）の場だけではなく、こうした地域コミュニティへのおつとめ（相互扶助）の場を作ることをもう一度確認することも、大切なコミュニティづくりへの重要なポイントである。

地域活動・ボランティア活動の事例

- 国際交流、観光ガイド
- 児童館の子どもの世話、遊び相手
- コミュニティFMのDJ
- 森林ボランティアガイド
- スポーツのインストラクター
- リサイクルショップの運営
- おもちゃの修理
- 自転車整備
- 公共施設（ミュージアム、図書館など）の受付ボランティア
- パソコンボランティア
- 歴史・文化財の保存活動
- 自然観察のレンジャー
- 陶芸・お花などのインストラクター
- 介護ボランティア
- グループホームでのボランティア

Copyright ホソウチ ハカセ

3. シニアの地域デビューに向けて

1) 地域活動・ボランティア活動を探す方法

シニアにとって、何といても自分の経験や強みを活かせる分野から、地域活動やボランティア活動を探してみるのが良いだろう。最初は趣味の世界や関心事から始めるのも手である。苦手分野は避けた方が無難だろう。まずは自分に合いそうなことから参加してみる。体験してみるのだ。時には周りの家族がお父さんの背中を少し押し上げてあげるのもおすすめだ。奥さんや娘さんがそのたぐいの公開講座やイベントにお父さんの参加申し込みをし、地域コミュニティへのデビューを促してみる。もし一人が無理なら、夫婦で一緒に参加するのも良いものだ。

2) 地域デビューへの棚卸しをしてみよう

地域コミュニティの講座やイベント等に参加することが決まれば、お父さんは次に挙げるような自分自身の棚卸しを考えてみよう。氏名、生い立ち、住所、年齢など、そして過去にどこに住んでいたか、また今はどこに住んでいるか。次に自分の趣味や信条などをアピールすることも考えてみよう。家族構成や尊敬する人など、そして今までの人生経験や勤労経験、ボランティア活動や地域活動の経験の有無などの紹介でも良い。現在の関心事やこれから地域コミュニティでやってみたいと思うことなどをあらかじめ纏めておくことも大切だ。結びに地域デビューへ期待することなどの参加表明でも良いだろう。

3) 地域活動やボランティア活動の情報窓口について

最後に、地域コミュニティで何かをしたいが、どこに行ったら良いか、まったく分からない人のために、情報窓口を紹介しよう。まずは自分の住んでいる地方自治体の広報紙をみるのが一番手軽だろう。次にインターネットでのキーワード検索や自治体のホームページを閲覧することもおすすめだ。都道府県や地方自治体の窓口には、県民活動サポートセンターや市民活動サポートセンター、市民活動支援課、市民自治支援課等の部署を設けているところも少なくない。またNPOのサポートセンターやボランティアのサポートセンターを利用するのもおすすめだ。こうしたところを手軽に利用するのも良いだろう。そこへの訪問・相談も、何らかの地域活動やボランティア活動の情報を得るのに参考となるだろう。まずは地域コミュニティへ向けて、初めの一步を踏み出してみることが大切だ。地域デビューは初心者にとって案外面白いものだ。

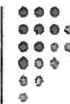
地域活動やボランティア活動の 情報窓口



1. 市役所の市民課・市民活動サポートセンター
2. 県庁の県民活動サポートセンター
3. NPOサポートセンター
4. ボランティアサポートセンター
5. 市町村の社会福祉協議会
6. 市役所などの生涯学習課(センター)
7. 国際交流協会
8. 市町村の図書館、博物館、公民館など
9. 市町村の各コミュニティセンター
10. 大学、高校、中学校、小学校、コミュニティスクール
など

Copyright © ホソウチ ハカセ

地域活動やボランティア活動の情報窓口



<市民活動サポートセンターなど>



<参考文献>

- 細内信孝監修『まちにやさしい仕事』C.B.N.
細内信孝著『新版コミュニティ・ビジネス』学芸出版社
細内信孝編著『がんばる地域のコミュニティ・ビジネス』学陽書房
細内信孝編著『団塊世代の地域デビュー心得帳』ぎょうせい
細内信孝編著『みんなが主役のコミュニティ・ビジネス』ぎょうせい
細内信孝編著『地域を元気にするコミュニティ・ビジネス』ぎょうせい
細内信孝著『コミュニティ・ビジネス』中央大学出版部

<参照ホームページ>

- <http://www.hosouchi.com/>
<http://www.npo-homepage.go.jp/>
<http://www.inpoc.ne.jp/>